

会 長 阿部信一
TEL 025-273-1572

事務局 井村健一
新潟市北区すみれ野2-10-12
TEL 025-259-7152

会報・編集委員会代表
浅野亘寛
長岡市金町2-2-17
TEL 0258-52-3998

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

山口国体を終えて

強化統括責任者 今井浩二

「66回おいでませ山口国体」は山口市のセミナーパークで山岳競技は実施された。今回は先に行われた北信越国体で成年女子、少年男女が本国体の出場権を獲得したため昭和63年に行われた京都国体以来、23年ぶりの全種別のフルエントリーの出場となった。

結果は次の通りである。

会場は全国中学校駅伝大会の会場にも使用される自然豊かな中に建つ施設で、体育館でボルダリング、少し離れた高台にある屋外でリード競技が行われた。両会場が近くにあり、競技終了後に他種別の応援ができ、選手のモチベーションを高めることができた。

リード競技は左右同じルートで2人同時に上り、その個人順位の合計が少ない県が勝者となる。また、ボルダリングは予選ラウンドで4課題が設定され、2人の完登数の合計が多い県が勝者となる。どちらも予選上位8位までが決勝に残り、再び決勝の課題にトライする。4種別の出場場

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
監督	竹井 康祐	砂山 智絵	今井 浩二	稲田 春男
選手	岩橋 由洋 宮口 直樹	片桐麻由子 瀧澤 愉未	南雲 純太 頭師 雅人	大月英理香 渡辺優梨菜
リード競技	31位	11位	14位	8位
ボルダリング競技	20位	11位	17位	11位

【成年男子】

成年男子のリードは岩橋が完登直前まで高度を上げ、好記録が期待できたが、稼働壁の傾斜がきつくなる付近でハンガーに足をかけて登ってしまったと判定され、31位という不本意な成績に終わってしまった。監督が抗議したものの判定は覆らず、本来のパフォーマンス通りの結果は得られなかった。

ボルダリング競技では、岩橋が4課題中3課題を完登、個人順位では全参加選手中4位というすばらしい成果を残した。岩橋はぜひ来年も出場したいという意志を示しており、パートナーの宮口の今後の伸びによって入賞圏内に近づいてくる可能性もある。彼の若さに期待したい。

【成年女子】

成年女子は昨年度のリードが9位、ボルダリングは13位であったが、今年度はリードで順位を一つ落とし、ボルダリングで二つ順位を上げた形になる。残念ながら2年連続で得点を逃した形になってしまったが、リードの個人順位は片桐が20位、瀧澤は21位、ボルダリングは片桐が17位、

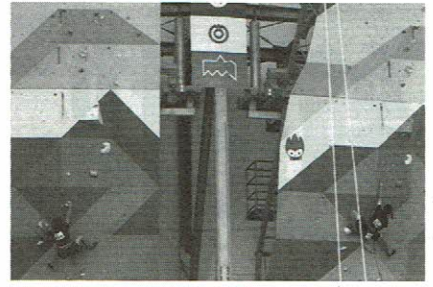
瀧澤が20位であった。

成年女子のカテゴリは少年女子として活躍してきた選手が加わるようになるため年々勝つことが難しくなってくる。ベテランの二人に女子選手を引っ張ってもらいながら、以前少年女子として勝つやしてくれた選手の復活を働きかけたり、若手選手の育成・発掘を試みたりしていかなければならないだろう。

【少年男子】

少年男子は高校1年生の南雲と中学校3年生の頭師ペアであった。南雲は大会2ヶ月前に右足の踵を骨折し、約1ヶ月間練習ができなかった。回復後の合宿等で少しずつ以前の状態に戻ってきてはいたが、やはり練習不足であったと言える。

また、頭師は中学校では陸上部に所属し、3000m走では県大会で入賞するほどの実力者で、当然在籍中学校の長距離のエースとして駅伝の主力となっている。国体前は駅伝もシーズンを迎えており、練習量が長距離走の練習にシフトしており、南雲以上に練習時間は不足していた。しかし、そんな練習不足の二人で



山口 国体

ベアであった。高校1年生の大月は昨年度の千葉国体にも北信越を突破し、出場した。しかし昨年は入賞に手が届かず、悔しい思いをした。しかし今年にはリード競技で見事予選を突破し、入賞を果たし、昨年の悔しさのリベンジを果たした形になった。

はあったが、本国体では予想した以上のクライミングができたように感じている。練習不足を感じさせない動きであった。

リードでは南雲が頭師以上に高度を稼いだものの、クイックドローへのクリップミスがあり、頭師が上位になった。しかし、ボルダリングでは南雲が1課題目を一撃で完登し、リードのミス挽回した。

今後二人のクライミング環境がどうなるかは不明な点はあるが、今年度以上に練習できる環境を整備していかねばならないと感じている。

【少年女子】

少年女子も少年男子と同様、高校1年生と中学校3年生の

できなかったことが原因と考えられる。競技経験をさらに積んでいく必要を感じた。今回は今まで監督経験のない2名の方に監督をお願いし、快く引き受けていただいた。選手として参加していただくとまどうことも少ないと思うが、本当に大変な思いをして引率してくださったと思う。今回の監督からコメントをいただいているので紹介する。

成年男子監督

竹井 康祐

競技の時の選手達の様子、結果はボルダリング、リード、共に決勝進出は出来ませんでした。両選手各々が順番までに集中力を高めて行き、大舞台の緊張感の中でも、自身と向き合えていたと思います。

監督としての感想、初めて監督を勤めさせて

いただきました。勝手も知らぬまま引き受けてしまいましたが、成年女子、少年男子女子の監督等のアドバイスのおかげで至らないまでも、選手達とは違った緊張感の中、勤

める事が出来ました。ありがとうございました。リード競技の時のオプザベーションがままならず。選手達に余計なプレッシャーを与えてしまった事、審判への抗議時での選手へのフォローが上手く出来なかった事が悔やまれてなりません。今後の課題としては、選手、監督間のコミュニケーション不足をなるべく減らす事監督としての仕事をきちんとこなす事、クライミングを楽しむ事です。

少年女子監督

稲田 春男

山口国体では山岳が第61回兵庫国体以来となる山口市の維新百年記念公園陸上競技での総合開会式に参加。現地での新潟県激励会、そして入場行進では、新潟県が近付くと応援席から「新潟頑張れ」の大きな声援が響き渡り、国体ならではの開会式に感動を受けました。会場周辺では色々な店が立ち並び、「ちよるる」や「ぶぐ風船」の前で選手達は写真を撮りまわっていました。また、他県の知り合いの選手達とも出会え、親睦を深めていました。選手はいろんな意味でプレッシャーがあったかと思いますが、頑張ってくれました。

成年女子監督

砂山 智絵

私自身は今回が初めての国体参加だったので緊張しましたが、選手の2人は経験豊富なので、落ち着いて競技に取り組むことができました。

結果は少々不本意でしたが、山口の方があなたかく迎えてくださったことや他県の選手と交流できたことなど、いい経験になりました。

今後この経験を生かせ

最後にありますが、選手強化等に尽力いただいた皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、阿部新潟県山岳協会会長様始め、協会の皆様から多大な御協力をいただきましたこと、かえり接骨院の小林純也様からは

66回 山口国体報告 少年女子

山口国体では山岳が第61回兵庫国体以来となる山口市の維新百年記念公園陸上競技での総合開会式参加。現地での新潟県激励会、そして入場行進では、新潟県が近付くと応援席から「新潟頑張れ」の大きな声援が響き渡り、国体ならではの開会式に感動を受けました。

会場周辺では色々な店が立ち並び、「ちよるる」や「ふぐ風船」の前で選手達は写真撮りまくっていました。また、他県の知り合いの選手達とも出会え、親睦を深めていました。

【選手からのコメント】

☆大月英理香選手

「リード予選では悔いの残る登りをしてしまいました。予選8位通過で、決勝に進め

選手の身体面のケアをボランティアでやっていただきましたこと本当に感謝しております。多くの方々から支えられた山口国体でした。

たので、決勝ではリベンジに燃えました。しかし、結果はミスをしてしまい、目標まで到達できませんでした。この失敗を次の大会や来年度国体で生かしたいです。

☆渡辺優梨奈選手

「初めての国体でしたが、リードでは決勝までいけたので良かったです。そして楽しむことが出来ました、それは周りの皆さんのおかげだと思います。

本当にありがとうございます。レSSHャーがあつたかと思

ますが、頑張ってくれました。最後になりますが、選手強化等にご尽力いただいた皆様

に感謝申し上げます。ありがとうございます。

少年女子監督 稲田春男

巻機山景観保全ボランティアに参加して

自然保護委員会副委員長

伊藤 直 (工友会)



◇期 日

2011年8月20、21日

◇作業箇所 偽巻機山登山道の裸地化箇所最下部

20日早朝、当会のメンバー4名(浜本、石田、風間、伊藤)

が曇天の新潟から清水に向かう。山手に近づくにつれ、時々雨が降ってきて気が重くなる。

7時過ぎ、清水登山道駐車場に到着、埼玉県ナンバー等の車が10数台駐車済みで香川ナンバーもやって来た。沢登り装備で出発しようとしている4、5人のパーティーもいた。

小降り雨の中を出発。雨は3合目半ほどのところで止む。3合目〜4合目の道はところどころ粘土が露出したり、幾筋にもやや深く溝状となっている箇所がある。

5合目焼松からは米子沢下部の滝の連続が俯瞰され、先ほどのパーティーが河原を行くのが見えた。間伐された気持ちはいい若いブナ林を左手に見ながら松穴の段の尾根を登るが、登山道はいたるところ幅広く黄土色の粘土が剥き出しとなり、幾筋もの溝になっている。6合目展望台では、黒ツブネの頭に懸かる霧が見られ始める。後ろから、6、7人の若い外国人らの男女パーティーが追いついて来た。超軽装でピクニック気分である。英国人だと言う。日本人の男子も一人いた。7合目までの登山道も5、6合目間と同様にところどころ粘土道となっており、1m以上の深さの溝になっている箇所もある。

7合目、物見平は表土が完全に剥ぎ取られ広いガレ場状になっている。万太郎山、大源太山などの谷川連峰が雲の下ながらよく見えるようになった。ここで気温が急に低下し寒くなったので雨具を着けた。昨年は異常に暑く、この辺でバテてしまったものだ。前巻機の斜面を登って行くと大ガレ場の下端に到達する。今年はこのガレ場の最下部の修復作業を行うという。8合目付近の昨年敷設の緑化ネットを見ながら斜面を登るが、ごくわずかに小さな草芽が生え始めている。上部に行くにつれて年次の古い施工箇所になり、少しずつ緑の面積が増えてくる。ユケや草がすっかりと生えて来たなどという状態になるには4、5年必要のようであるが、修復作業の成果が見ら

れるのは嬉しいことである。施工箇所の植生は、今後複雑に遷移しながらいづれ本来の自然植生に戻っていくと考えられるが、現在はその過程を観察中だと松本さんは言っておられた。前巻機の頂上に到着すると、曇天ではあるが、米子頭、巻機山、割引岳へと連なる頂稜線が眼前に広がっていた。穏やかで胸の晴れ晴れとする景観である。先ほどの英国人等のパーティーが引き返して行く。あの軽装では寒くて恐れをなし、頂上行きを諦めたのだろうか。

12..00 巻機小屋着。米子沢源頭まで少し降り、テント場へ降りる。先着の皆さんのテントが5〜6張有り、我々は最下部、水場への降口付近に設営した。この源頭は通常幕営禁止である。

12..30 小屋前に集合。全部で30人ほどだろうか。今年は東京農大の学生の皆さんが少ない。今日はヒゲノガリヤスの種を採取し、明日播種するとういう。この8月半ば頃がヒゲノガリヤスの種穂が実り、播種の適期なのだという。もう一種播種に用いるヌマガヤは9月半ば頃種穂ができるのだそう。松本さんが採取に適したヒゲノガリヤスの見本を示した。御機屋下の洗掘溝内から巻機山三角点の間で種を採取した。摘んだ穂をレジ袋に入れるのだが、種の入った良さそうなものを選んでいくのでなかなか収量が上がらない。途中雨が降ったりしたが、草原とオオシラビソの林が調和した山稜での作業は清々しく楽しいものであった。イワシヨウブやオヤマリンドウが咲き、コバイケイソウは茶色に枯れかけ、山の秋は始まっていた。

15..00頃種取作業を終了した。夕食も済み、酒などを飲んでいた19..00頃、「小屋までどれ位ですか？」とテントの外で声がした。朝、駐車場で見かけたパーティーが漸く上がって来たのだった。「あと2分。」と答えてやったが、既に暗くなってしまっており危うい連中である。

夜半から明け方、かなりいい雨が降っていたが、テント内への浸水も大したことなく、張った場所が平だったので全員よく眠れたようである。6時過ぎ起床。7時半から作業開始と昨日は言われていたので急ぐでもなく朝食の準備をしているところへ、「7時から作業開始します。」という触れが来てあわてる。雨は小降りになっていく。

前巻機ガレ場最下部へ移動し、作業開始する。作業地は既に丸太組で土止めされ小さな段々畑状になっている。最初に石をその地面から取り除く。取り除いた石は後でネット押さえとして使うので適当に段の縁などに置いておく。そこへ昨日採取した種穂をかなりの密度で播いていく。種を穂のまま播くのはネットで押さえられ、風や雨で失われ難いからである。その上に緑化ネットを被せて行く。区画の形状に合わせてネットをハサミで切る。このネットはシュート製で4年程保つという。

ヒゲノガリヤスが発芽し、根付くまでネットが支えてくれるのがいいのだそう。以前使っていたものは1年で腐ってしまつて芳しくなかった。種を押さえるためにネットを地面に密着させる必要があり、ゆつたりと張る。この上に石を載せて重しとする。石はネットを押さえると共に草の発芽、生育を保護し、促進する重要な役目を果たす。ネットを地面に更に密着させるために10cmほどの番線をU字状に折り曲げたものを刺していく。今年の施工面積は少なく、10時半頃にはこの作業は終了してしまつた。前巻機ガレ場での種付け作業は今年でほぼ終了したようだ。松本さんに、来年はどうされるのかとお聞きすると、偽巻機の登山道からは見えないが、やり残している箇所が幾つかあり、そこをやる予定だと言われた。7合目の裸地はどうするかと、他の方が尋ねると、あそこはあれ以上には進みようがないと思う、と答えられ、おやりになる予定は無いようだ。7合目からは我々地元がやらなければならぬのだから。関東から参加された皆さんはここで下山して行った。我々もここで失礼させて貰ったが、一旦小屋に戻り割引岳を往復してから下山することにした。

巻機山から割引岳間は雨乃至ガスで眺望は得られず、割引岳直下では強風が吹いていた。イワシヨウブ、キンコウカが草原に目立ち、オヤマリンドウも沢山見られたがツボミを固く閉ざしたままだった。

巻機山塊では最も頂上らしい割引岳頂上で写真を撮り、そそくさと小屋に戻った(12..45)。昼食を摂っていると、農大の皆さんは木材やボルトを担いで山頂方向へ向かって行った。

我々は12..45下山を開始した。途中粘土が露出し、雨のためバナナの皮状になった登山道で何度も転びながら桜坂駐車場に到着した(15..50)。巻機山景観保全作業も、残された小裸地への手当や頂上直下の大規模な洗掘溝をどうするかという課題はあるものの、いよいよ収束期に差しかかっているようだ。しかし、必要とされる限り今後も我々はこのボランティアに参加していきたいと考えている。頂上直下の洗掘溝は、古杭や笹等をぶち込むによって数年前に比較してかなり土砂が溜まり、植生も特に上部が復元してきている。松本さんは、今後この様子見をしていきたいと述べられている。本格的に復旧するにはプロの業者による工事が必要で、県を始めとした地元自治体や山岳団体、個人等に残された課題になるのだと思う。



電話 0256-3319441
宮崎 幸司

※賛助会費納入の問い合わせ
振込み用紙の請求

新潟県山岳協会
会 長 阿部 信一
理事長 遠藤 俊一
総務委員長 宮崎 幸司

●矢澤 建三
(悠峰山の会)
(敬称略、順不同)

次の皆様から、ご入会、ご
入金を頂きましたので、ご報
告させていただきます。
*9月22日~10月10日現在の
ご入会、ご入金状況です。

**賛助会員入会
ご入金のお礼**

安全登山研修会講習会の開催について

新潟県山岳協会会長 阿部 信一 遭難対策委員会委員長 井 春文



期 日 平成23年11月6日(日)
場 所 加茂市ビクターセンター(粟ヶ岳県民休養地) ☆加茂市宮寄上2684
参加費 1,000円 ☆当日 受付にて徴収
講習内容 8:30分受付開始 9:00~12:00救急法講習会(消防署による普通救命講習)

○加茂消防署職員 ※普通救命講習修了証が交付されます。
13:00~15:30 ロープワーク、安全登山講習会の復習等
○登山研修所講師 並びに遭難対策委員会

装 備 特に必要ありませんが、午後から屋外に移動するので動きやすい服装でお願いします。ロープなど最低限は委員会で用意しますが、セルフレスキュー関係の装備、補助ロープ等お持ちの方は持参して下さい。

※詳細は加盟団体事務局へ送り付けの案内文書で確認して下さい。

申込問合せ 郵送、FAX Eメールにてお願いいたします。
〒949-6423 南魚沼市舞子1124
☆ 井 春文 025-782-2437 (TEL、FAX)
Eメール cht38@proof.ocn.ne.jp

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー



パーマーク

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス



新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134代
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

新山協ニュースの原稿募集のお願い!



雪山に消えたあいつ
 山が命と笑ったあいつ
 山をいちはばん笑ったあいつ
 雪の禊高と答えてあいつ
 伝にひと言教えて
 ふくれ
 なんと吹雪にあいつは
 消えた

広く原稿を募集いたします。行事・記念誌・会報・などの紹介。会の地域研究・個人の紀行文、山行記録、「チョットそこまでの低山の楽しい文」や詩、地域のアプローチや登山道・動植物・環境問題に関する感想や情報などお寄せ下さい。原稿（横文、原稿用紙1,500文字程度）はメール又は郵送で短文でも結構です。イラスト、写真つき歓迎します。

〒940-0221 長岡市金町2-2-17 浅野巨寛 方

☎ (0258) 52-3998 Mail: a-unkai@m8.dion.ne.jp

編集こうき

▲南極のオゾンホールは前から指摘されていたが、北極の上空でも異変が起きているらしい。今春南極のオゾンホールに匹敵する規模のオゾン層破壊がおきていたことが国立環境研究所など日米欧9ヶ国の調査で分かったと新聞などが報じていた。北極で

ここまで深刻なオゾンホールが観測されたのは、初めてだそう。オゾン層の破壊が進めば健康などへの影響は計り知れない。

原因の一つは以前から指摘されていた冷蔵庫の冷媒などとして使用されていたフロンなどオゾン層を破壊する物質の存在らしい。1987年以降フロンは生産中止となっており、90年代後半をピークに、破壊物質の大気中の濃度は緩やかに減少しているらしいのだが、依然高い状態にある。

オゾンホールを引き起こさないレベルまで下がるには、あと数十年かかるといわれている。そうした状態に今回、成層圏がかさなり、通常北極上空は南極より冬の気温が高

く、オゾン層が壊れにくいとされてきたが、異常低温の時期が約4ヶ月も続いたことで北極上空のオゾン層が失われたと言われている。日本も遠い北極圏の話として安心しては行かないらしい。

▲体調をくずしてオカユの世話になつて日々が20日以上も続いている。特に朝食などはオカユに慣れると食もすすむし止められない。いろいろなふりかけやタラコなど試してみたが、やはり行きつくところはネギ味噌、肉味噌は具合が良い。特に肉味噌はオカユのお采だけでなく、お酒、ビール、ワインの酒の肴にもよい。また味噌ラーメンに加えるなど応用が利く。

作り方はな〜に簡単だ。よく熱したフライパンにサラダ油をたらし、ひき肉をすばやく炒める。少量の酒と砂糖を溶かしておいた味噌は（ひき肉と同量）を混ぜ炒め、顆粒ダシで味を調べて味噌に火が通れば出来上がり。好みでゴマ油、ラー油で風味をつけると良い。冷蔵庫だと日持ちが利くから作り置きができる。

会報・編集 浅野



www.hakkaisan.co.jp

八海醸造株式会社 新潟県南魚沼市長森1051番地 お客様相談室 025-775-3866

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第553号・JATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員

本社：新潟県長岡市金町1丁目3番6号

<http://www.uks.co.jp>

- ☐長岡営業所 〒940-0294 長岡市金町1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123
- ☐新潟営業所 〒950-0918 新潟市東山3丁目2番11号 ☎ (025)246-2266